

第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 参加報告

吉見 佳那子

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

1. はじめに

第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が2022年9月23日(金)、24日(土)に幕張メッセ(千葉)で開催された。この学会は医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師など摂食嚥下リハビリテーションに関わるさまざまな職種が参加し、会員数は約15,000名である。今年度も現地開催とオンデマンド配信のハイブリット形式で開催された。参加登録数は6,600名を超え、現地参加は約3,000名であった。

2. 学術大会のテーマ

学術大会のテーマは「摂食嚥下のSDGs」である。SDGs(持続可能な開発目標)の「誰一人取り残さない」という理念から、摂食嚥下リハビリテーションの分野でも誰一人取り残さないことを目指し設定された。SDGsの17のゴールにちなみ、17のカテゴリから大会プログラムが構成された。それぞれのプログラムでは、2030年を視野に摂食嚥下



図1 大会会場に設置されたモニュメント

リハビリテーション分野で私たちが何を考え、どこに向かうべきか、が議論された。また会期中には、特別講演や市民公開講座などのさまざまな企画が設けられた。

3. 会場の様子と感想

多くの参加者が来場し、一部では満席や立ち見の会場があった。企業展示も開催され、補助栄養食品や嚥下調整食の試食、リハビリテーション機器のデモが行われた。また展示会場には数十台のタブレットが設置され、密にならずゆっくりと演題ポスターが閲覧できるように工夫されていた。

一般演題会場は、発表者への質疑やディスカッションで大いに盛り上がった。最近の学会では、スライドが事前録画であったり、発表内容をweb上でしか閲覧できないなど制約が多かったこともあり、それぞれの参加者が活発に参加しているのがとても印象的だった。また今回の大会は、臨床や研究の分野の新たな知見の発表に限らず、医療倫理や災害時の支援、摂食嚥下障害患者の食の楽しみやQOLに関する内容などのさまざまなプログラムがあり、今後私たちがどのように患者と関わり、支援するべきかが問われる内容であったと感じた。

私は現地とハイブリットで参加したが、聞き逃したプログラムをオンデマンドで後からじっくり見返せるのは大変便利であった。来年度のテーマは「摂食嚥下リハビリテーションと多様性」だそうだ。時代の流れに合わせた摂食嚥下リハビリテーションに関する学びを得る機会となり、楽しみである。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
摂食嚥下リハビリテーション学分野
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45